

デジタルスキル標準  
DXリテラシー標準  
DX推進スキル標準

# 競争環境の変化

Why DXの背景	What DXで活用されるデータ・技術		How データ・技術の利活用	
社会の変化	データ	社会におけるデータ	活用事例・ 利用方法	データ・デジタル技術の活用事例
顧客価値の変化		データを読む・説明する		ツール利用
競争環境の変化		データを扱う	留意点	セキュリティ
		データによって判断する		モラル
	デジタル 技術	AI		コンプライアンス
		クラウド		
		ハードウェア・ソフトウェア		
		ネットワーク		

マインド・スタンス

デザイン思考／アジャイルな働き方

新たな価値を生み出す  
基礎としてのマインド・スタンス

顧客・ユーザーへの共感

変化への適応

常識にとらわれない発想

コラボレーション

反復的なアプローチ

柔軟な意思決定

事実に基づく判断

# この教材の学習目標と学習項目

データ・デジタル技術の進展や、社会・顧客の変化によって、既存ビジネスにおける競争力の源泉が変わったり、従来の業種や国境の垣根を超えたビジネスが広がったりしていることを知る。

- デジタル技術の進展により新規参入へのハードルは従来よりも大きく下がっていることを知る。
- 国境を超えた製品・サービスの売買が容易になっていることを知る。
- 自社の競争環境は従来とどのように変わっているのか、あるいは変わる可能性があるのかを知る。

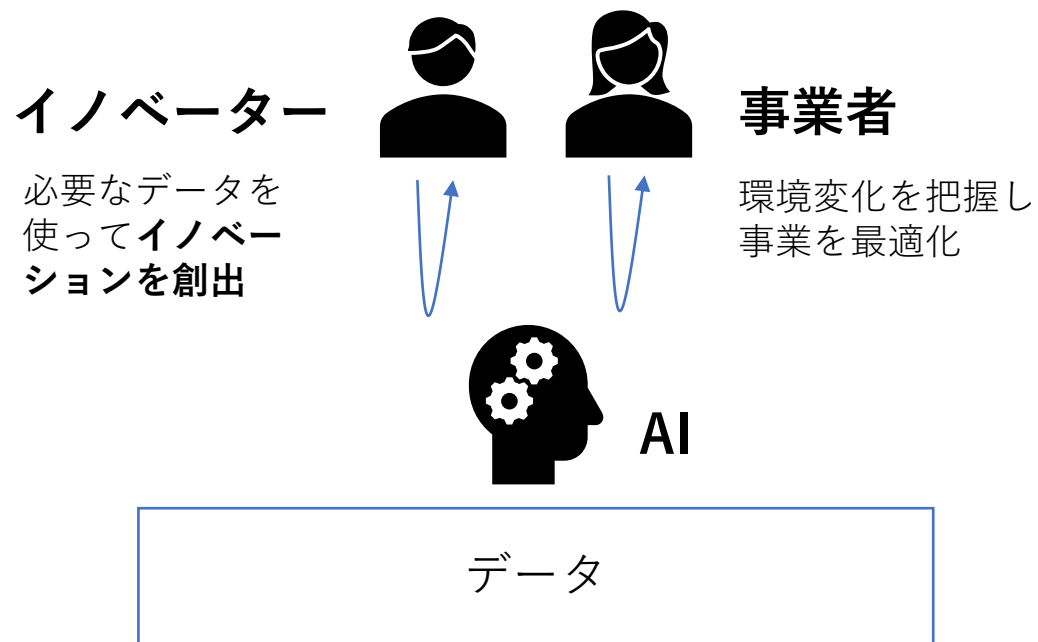
## DXリテラシー標準学習項目例

- デジタル技術の活用による競争環境変化の具体的事例

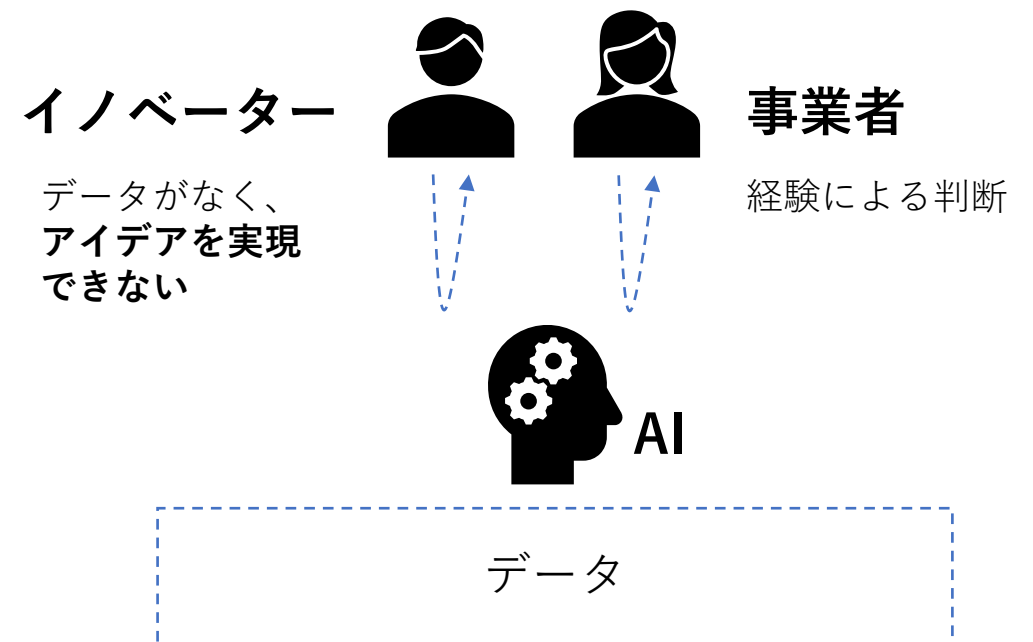
# データ基盤が競争力を左右します

- AIは重要なツールですが、それだけでは機能しません。

## データ基盤があるとき



## データ基盤がないとき

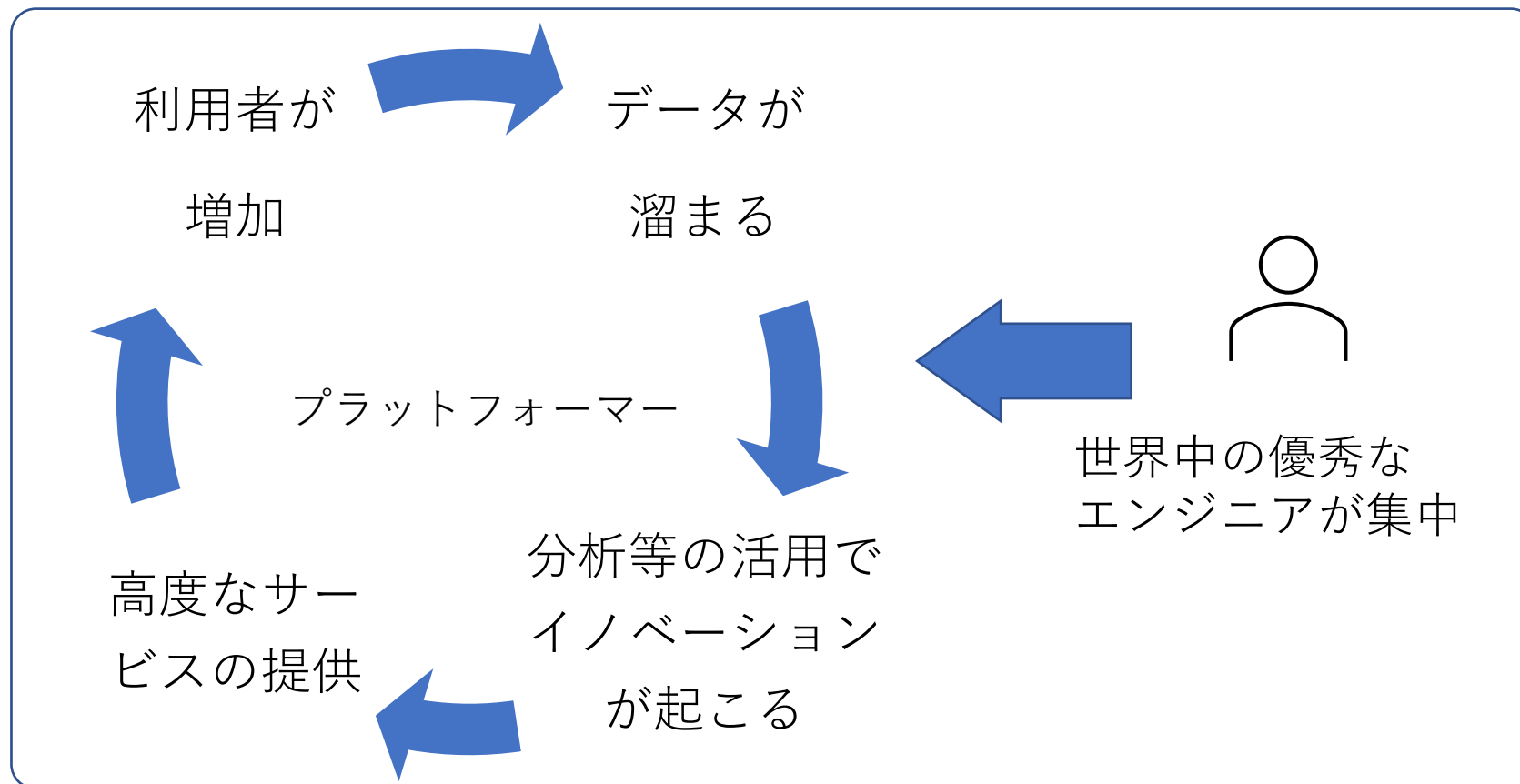


# デジタルの世界は参入ハードルが低くなっています

- 工場などの設備投資が不要で、スマートフォンのアプリのようにグローバルな共通サービスを利用することで、開発や販売を効率的に行えます。
- 人材もグローバルマーケットから調達することが容易になっています。
- このようにマーケット参入が容易で、一気にグローバルマーケットに出られる環境が整ってきています。
- 汎用性の高い取り組みほど、参入のタイミングが競争の優位性を左右します。他者に先を越される前に先手を打つことが重要になります。

# プラットフォームはスパイラルアップしています

- 一気に寡占化や囲い込みが進むことがあり、その結果、後発でマーケットに参入することが難しくなることがあります。



この動きが世界中で起きている

# 組織も人もMoving Horizon<sup>\*1</sup>に向かっていきます

- 未来は常に変わっている。変化に順応し、常に変化し続ける必要があります。

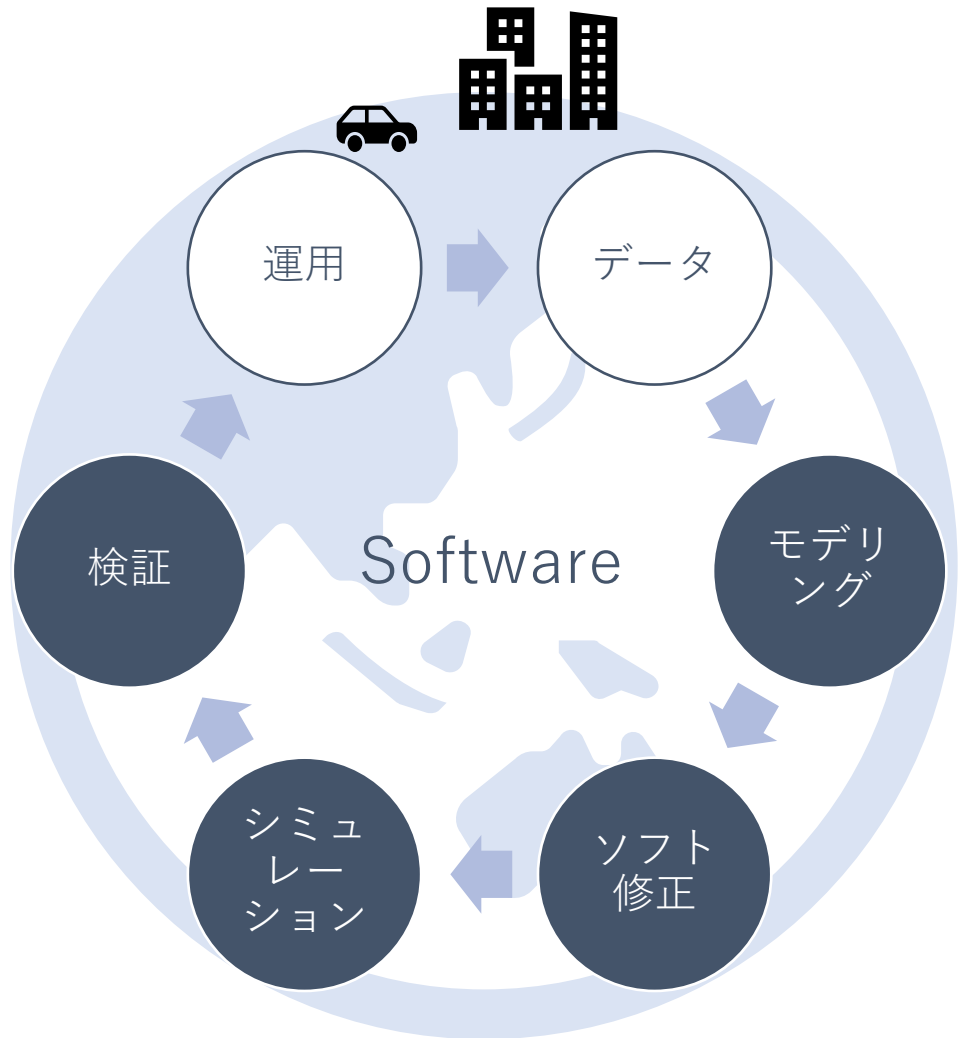


多様な森ができる  
森も変化していく



<sup>\*1</sup> 動き続けるゴール。ゴールを点ではなく、面でとらえているのでこのように表現。

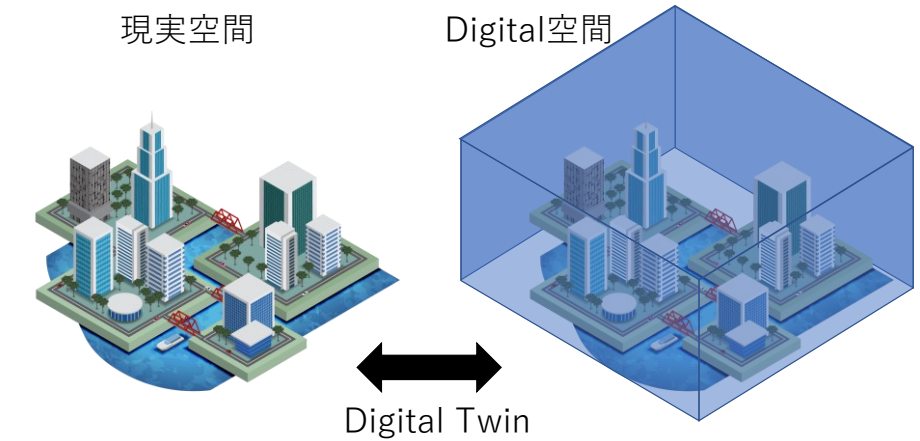
# ソフトウェア・ディファインド社会が始まっています



- 収集したデータにより、自動車やモノなど、多くのものがアップデートし続けます。  
– SDV (Software-Defined Vehicle) だけではありません。
- スピードは速く、グローバルです。

# 社会の目指している姿を見てみましょう

- 誰でもデータをストレスなく活用でき、デジタル技術が暮らしをサポートしてくれる社会
- 変化に柔軟に対応できる社会



様々なサービスが選択でき、暮らしやすい

必要なデータが簡単に手に入り、新サービスをスタートさせやすい

社会の維持管理コストが減少

Trust & Safety

データが高度に管理され、重複投資がなくなる

オープンデータ

+ 民間データ

データ交換や活用するための仕組み

データの入力や審査が自動化され、手続きが速く楽になる

行政機関保有データ

統計

センサーデータ

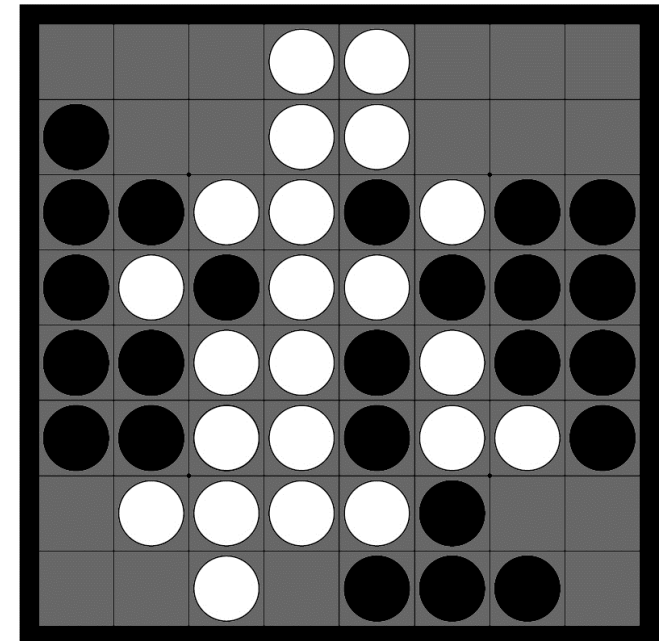


# ブルーオーシャンかグレーゾーンか捉え方が違います

- デジタル社会では、技術の変化に法律などの制度の変化が追いつかず、法律で規定されていない領域が生じることがあります。
- 多くの成功した国際サービスは競争の少ない「ブルーオーシャン」とみています。日本はでは制度や慣習の曖昧さを背景に「グレーゾーン」として扱い、慎重な姿勢が目立ちます。
  - － 不用品マッチング
  - － 無人タクシー
  - － 遠隔医療

# オセロは一気にひっくり返ります

- 電子決済やクレジットが主流になり、現金やATMをほとんど使わなくなっています。
- 国内でマーケットを押さえてもグローバルに良いサービスが出てくると一気にひっくり返ります。
  - 一角を取りに行きます
  - 角を取らせません
  - ひっくり返らない場所を抑えます



# デジタル技術が競争環境を変化させる要因です

- デジタル技術が競争環境を変化させる要因には以下のようなものがあり、これらの要因が複合的に作用し、従来の業界構造や競争環境が大きく変化しています。

## 技術の進化と普及

- AI、IoT、ビッグデータの活用
- コスト削減

## 顧客行動の変化

- デジタルネイティブ世代の台頭
- 口コミ・レビューの影響

## データの価値の増大

- 顧客データの活用
- リアルタイム情報の活用

## スピードと柔軟性の重視

- リアルタイム対応
- 小規模な企業の競争優位

## プラットフォーム経済の台頭

- 市場の再編
- ネットワーク効果

## グローバル化の促進

- 市場の拡大
- コスト競争

## 新たなビジネスモデルの登場

- サブスクリプションモデル
- オンデマンドサービス

## 規制や法整備の変化

- データプライバシー規制
- 市場独占の抑制

# デジタル技術による競争環境に備えて行うべきことがあります

- デジタル技術の進化により競争環境が急速に変化する中、企業や組織は「いつでも動ける」準備が不可欠です。

## デジタル戦略の構築

- 明確な目標設定: デジタル技術の導入目的を明確化し、競争優位を築くための具体的な計画を立てる。
- ロードマップの策定: 長期的な視点でデジタル化を段階的に進める計画を作成する。

## アンテナを高く持つ

- 日々変化する状況に迅速に対応することで、新サービスを生み出し、顧客のニーズをつかむ。
- 異業種の情報にも目を配り、アライアンス等の可能性を検討する。

## 想像力を持つ

- 新しい考えを奨励し、組織内に新しいことを考える文化を定着させる。
- チャレンジすることを評価し、アイデアを検証することを奨励する。

## データ活用の強化

- データ収集と分析: 顧客データ、行動データ、業務データを効果的に収集・分析し、意思決定に活用する。
- データリテラシー向上: 社員全体にデータの読み取りや活用スキルを身につけさせる。

## イノベーションへの投資

- AIやIoTの導入: 先端技術を活用し、生産性向上やコスト削減を実現する。
- R&D（研究開発）: 新しい製品やサービスの開発に向けた研究に投資する。

## 人材育成と組織変革

- デジタル人材の育成: AIやデータ分析などの専門スキルを持つ人材を社内で育てるか外部から確保する。
- 柔軟な組織体制: 迅速な意思決定が可能なフラットな組織構造を構築する。

## 顧客中心の視点を強化

- 顧客体験の向上: パーソナライズされたサービスやスムーズなUX（ユーザー体験）を提供する。
- エンゲージメント強化: SNSやチャットボットを活用し、顧客と積極的にコミュニケーションを取る。

## パートナーシップの活用

- 外部企業との連携: スタートアップやテクノロジー企業と提携して、デジタル技術の導入を加速させる。
- オープンイノベーション: 外部リソースを活用して新しいアイデアを取り入れる。

## セキュリティと規制対応

- サイバーセキュリティの強化: デジタル化に伴うセキュリティリスクを最小限に抑える。
- 法規制の遵守: GDPRや個人情報保護法など、各種規制に対応した体制を整える。

## 柔軟性と迅速性の向上

- アジャイル開発: 市場や技術の変化に迅速に対応するため、小規模で短期間の開発プロセスを採用する。
- リアルタイム意思決定: データと分析を活用し、変化に即応する意思決定体制を構築する。

## 新たなビジネスモデルの模索

- サブスクリプションやオンデマンドサービス: 顧客のニーズに応える新しい収益モデルを導入する。
- プラットフォーム戦略: 自社の強みを活かしたエコシステムを構築する。

## 社会的責任とサステナビリティの重視

- 環境負荷の低減: デジタル技術を活用し、持続可能なビジネスを目指す。
- 透明性の確保: データ活用や技術導入における倫理的な取り組みを公開し、信頼を得る。

# デジタル技術が競争環境を大きく変化した事例

- デジタル技術の活用が競争環境を大きく変化した具体的事例を以下に示します

小売業	エンターテインメント	タクシー業界	銀行	旅行代理店	新聞・雑誌	教育機関
<ul style="list-style-type: none"> <li>ネットショッピングは、AIによるレコメンド機能、ビッグデータ分析、倉庫のロボット化を活用して、従来の小売業との差別化を図っています。これにより、リアル店舗中心の小売業者は、オンライン展開やオムニチャネル戦略を迫られました。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ストリーミングサービスは、AIを使った視聴履歴分析と独自コンテンツ制作で、従来の映画館やテレビ放送に変革をもたらしました。これにより、映画館は特別上映や体験型のサービス提供に注力するようになりました。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>配車アプリは、スマートフォンアプリを通じて、リアルタイムの車両手配とキャッシュレス決済を提供。従来のタクシー会社は配車アプリのプラットフォームを活用したサービス提供の必要性に迫られています。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>フィンテック企業はモバイルアプリでの即時送金や低コストの国際送金サービスを提供。従来の銀行は、オンラインバンキングの強化や手数料引き下げを余儀なくされています。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>オンライン旅行サービスはオンラインプラットフォームを活用して宿泊施設や旅行プランを直接提供し、中間業者を排除。旅行代理店は高付加価値サービスの提供にシフトしています。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>デジタルメディアは、インターネット広告モデルや無料コンテンツの提供で、新興メディアが市場を獲得。従来の出版社は、デジタルサブスクリプションモデルへの移行を進めています。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>EdTech企業のオンライン教育プラットフォームが、手軽に専門スキルを学べる環境を提供。従来の大学や専門学校はオンライン学習の導入を進めています。</li> </ul>

# まとめ

デジタルを考える前提として社会の動向を知る必要がある

社会全体で、デジタルで何ができるかを考える

デジタル化は国内だけでなくグローバル視点で取り組む必要がある

社会が大きな転換点にあることを前提に大きく考える

変化を素早くとらえ、意思決定のスピードを上げる

# 改訂情報

- 2025-07-23  
－新規作成